

令和7年度 外部評価委員会 記録

令和7年10月9日(木) 16:00～17:00 於会議室

〔外部評価委員〕中村、矢花、山崎、真柄、王（オンライン）

〔本学出席者〕北川、清水、有泉、東、前嶋、鈴木、横尾、笹森、佐々木

I. 挨拶

1. 北川常務理事
2. 清水学長

II. 出席者紹介

1. 本学出席者紹介（自己紹介）

- (1) 北川 前肇（常務理事）
- (2) 清水 海隆（学長）
- (3) 東 浩一郎（学科長）
- (4) 前嶋 元（幼児教育専攻課程長）
- (5) 鈴木 健史（教務委員長、幼児教育専攻課程 准教授）
- (6) 有泉 正二（自己点検・評価委員会副委員長、現代コミュニケーション専攻課程長）
- (7) 横尾 瑞恵（ALO、現代コミュニケーション専攻 准教授）
- (8) 佐々木正人（ALO 補助）
- (9) 笹森千沙子（事務長）

2. 外部評価委員紹介（自己紹介）

- (1) 中村麻衣子（フェリシアこども短期大学 副学長）
- (2) 矢花 伸二（杉並区保健福祉部 障害者施策課長）
- (3) 山崎 裕一（埼玉トヨペットホールディングス株式会社 人財育成室スタッフ担当課長）
- (4) 真柄 恒夫（東京立正中高 副校長）
- (5) 王 在喆（立正大学 副学長）※オンライン

III. 概要説明

1. 現状説明

- (1) 2024年度（令和6年度）に認証評価を受審し、一般財団法人大学・短期大学基準協会が行う認証評価において適格の認定を受けた。
- (2) 今年度から本学の自己点検は、また新たな段階に入った。
- (3) 自己点検委員会の構成メンバーや役割も新しくなった。
- (4) 自己点検・評価活動の組織的な取り組みとして、毎年度「自己点検評価報告書」を作成し、本日開催した外部評価委員会で、学外の方々の参画を得て取り組みの適切性を点検・評価していただく。
- (5) 外部評価委員会の内容を各委員会で共有する。また、各委員会と自己点検評価委員会の連携によるPDCAサイクルを確立している。
- (6) 学外の外部評価委員会の方々には、本学の3ポリシーを踏まえて、入学者選抜やカリキュラムの内容、学修成果への取り組みについてご意見や評価をいただきたい。

2. 基礎データに基づく概要説明

- (1) 基幹教員数や職員数より：最小限の人材で運営している
- (2) 学生数より：近年は入学者定員を満たしていない
- (3) 開講されている授業科目と担当者を紹介
- (4) 教員の研究活動状況や学部研究資金の獲得状況を紹介

3. 今年度の課題（検討中）の事項

- (1) 学修成果および評価・査定方法（アセスメント・ポリシー）の具体化（主に現コミ専攻）
アセスメント・ポリシーを2023年度に策定、2024年度にカリキュラムツリーを作成。
しかし、ルーブリック評価など卒業認定・学位授与方針への達成度を測る評価基準は未導入。
2025年度にはカリキュラムツリーの運用・活用とルーブリック評価などの検討が必要。
- (2) カリキュラム改革
多様な学生の受け入れとともに、多様な就職支援の必要性（出口を意識したカリキュラム）
各コースの履修モデルを再構成する
- (3) 内部質保証ルーブリックをガバナンスコードとリンクさせる
3ポリシーの改定問題、アセスメントポリシーとの整合性も検討が必要
- (4) 法令対応確認一覧への対応

IV. 外部評価委員会からのご質問、ご提言等、それに対する評価校側の説明

1. 中村麻衣子 先生（フェリシアこども短期大学 副学長）

- (1) シラバスのチェックはどのように行っているか
○シラバスの項目について専任・非常勤講師に確認をとっている。
教務委員会でシラバスの内容を確認し、加筆・修正等お願いしている。
- (2) フェリシアでは、1人10科目程度で教員全員がチェックする。また教員相互でトリプルチェックの体制も整えている。修正が遅いのが課題（特に非常勤の先生）。
- (3) 授業評価アンケートの開示方法
○教員のコメントを印刷したファイルを教務部窓口で開示（学生のコメントは記載なし）
- (4) 幼児教育専攻で使用している学生カルテと履修カルテの違いは？
○学生カルテはネット上で教員と学生が共有し課題を解決するために利用。学生生活のエピソードを通して自分の強み弱みへの気づきにつなげている。また、各期の達成目標を設定して、自己評価をさせている。それらを学生面談に役立てている。
履修カルテは本人の確認用。教職実践演習の授業で作成し、科目について何を学んだか、そこで、何を習得して、何を身につけなくてはいけないかを確認する内容となっている。

2. 矢花伸二 氏（杉並区保健福祉部 障害者施策課長）

- (1) 地域に根付いた活動、地域の人材養成を積極的に行っていると感じた。地域貢献における今後の方向性は？
○授業と一体化させ、現場での学びの大切さや地域の課題を知る機会にしたい。
- (2) 今後に向かって、こういった方向を大切にしているのか？
○小規模校で人的資源が乏しいなかで過重な負担にならないように、授業の一環として、教員と学生が地域に出て、地域の人とともに活動をし、地域課題を発見し、それらの解決に向けた研究をして、地域にフィードバックするようなことができるとよいと考えている。

(3) 地域や行政への要望があれば聞かせてほしい

○杉並区は協力的なのでありがたいが、学生を労働力としてしか見ていない団体もある。この問題を解消するためには、講義にゲストスピーカーとして来てもらうなどの方法をとりたい。また、学生の活動に対する財政的補助があれば、更に地域へ貢献できる可能性がある。地域で養成した人材が学内の活動に力を貸してもらえそうな仕組みづくりができるとよい。

(4) 杉並区のこども発達センターで活動している学生に対して、センターの職員が「志高く活動している」と評価していたのでお伝えしておく

3. 山崎裕一 氏（埼玉トヨペットホールディングス株式会社 人財育成室スタッフ担当課長）

(1) 卒業生 2024 年 4 月入社。活躍してくれている。非常にありがたい存在。

(2) 埼玉トヨペットでも社員に対して、「働き方を考えていきましょう」、「学びをとめないで」と伝え、学べる制度「資格取得支援制度」を進めている。東京立正短期大学を卒業した社員は他の人と協力する力が秀でている。学習発表会などを行い、コミュニケーション能力を一つの学修成果としている短大の取り組みを評価したい。

資格取得支援等、手厚い個別サポートとしてのホームカミングデーについて伺いたい。

○半年働いた卒業生を招いている。卒業生はアドバイスを受けることができる。

今年度も卒業生の訪問しやすさを考慮して 9/28(日)文化祭当日に実施した。

現コミ専攻参加者は編入学した学生が多かったが、幼教専攻は現場で働いている卒業生が来校し、現在の状況を伝えたり、先生に専門的な相談をする場面もあった。

卒業生にとって良い機会になっていると思うので、これからも続けていきたい。

(3) 弊社は車で地域支援として、産官学連携を実施。

(4) 車の免許をとることは単に車に乗ることだけではなく、ライフステージにおいて必要になってくる。

4. 真柄恒夫 先生（東京立正中高 副校長）

(1) G P Aはどのように換算するのか

○A(4)、B(3)、C(2)、F(0)としてG P Aを換算している。

(2) G P A分布表は保護者に郵送しているのか

○郵送はしていないが、学生同様、本学ポータルサイトで閲覧可能（成績や出席状況も閲覧可）

(3) 編入学を目指す学生が減少傾向にある理由は？

○定員の厳格化がなくなり、4 年制大学に入学しやすくなってしまったことが理由として考えられる。一方で、難関校を目指して短大に入学してくる学生は増えている。

(4) インターンシップへの取り組みはどうしているか

○短大生は主に短期のインターンシップに参加している。

また、1 年次に「インターンシップ概論」という授業を開講し、インターンシップのイベントに参加させたり、こちらが指定する企業を訪問させたりという取り組みを行っている。

夏休み前には就職部がインターンシップに関するガイダンスを実施している。

インターンシップとは異なるが、就職を考えている学生たちには先輩の声が非常に効果的なので、10 月には卒業生懇話会、11 月には内定報告会などの機会も設けている。

5. 王 在喆 先生（立正大学 副学長）※オンライン

(1) 学習ポートフォリオや学生カルテを利用して、量的側面（G P Aなど）だけでなく質的データ（学習ポートフォリオ、学習カルテ、学生自己評価）にも学修成果を可視化させている点は評価。同様に、学修成果として学修発表会も評価したい。

- (2) 学生支援として、入学前の仲間作りやピアノレッスン、また個別面談ホームルーム担任制など気軽に相談できる体制も評価
- (3) 就職支援としては、卒業生に対するアンケートだけでなく進路先に対するアンケートを実施している点を評価
- (4) 教育資源面では、科研費の獲得数が基幹教員の3割強と割合が高い。
- (5) 教育研究活動として、相互参観や授業撮影でFD研修をやっている点も評価。
- (6) 自己点検を行っているが、自己評価も同じ組織で行っているのか（外部評価とは別に）
○現状は同じ組織で自己点検・自己評価を行っている。
内部の自己評価が必要であると考え、今後取り組んで行きたい。
- (7) 立正大では、自己点検は教務が実施し、自己評価は学内から第三者の視点で別の者が評価するシステムを確立した
- (8) 多様な個別入学者の評価はどのように実施しているのか
○入学者選抜において、学力以外の総合型で部活動や生徒会での活躍度合いや役職、またダンスや演奏などパフォーマンスの能力別に基準を設けて実施している
〔一般選抜〕学力の評価であり、本学に入学を志願する学生は様々な事情を抱えている。
学力以外を評価したいと考えている。
〔総合型選抜〕ダンス、部活、リーダーを評価している。学力以外のところを重視している。
- (9) 特性に基づいた場合、入学後の教育は大丈夫か
○入学後の教育としては、10名に1人担任がついている。特性に応じて担任が個別対応し、専攻課程会議で共有し支援を検討している。入学後教育を丁寧に行っていく必要がある。
- (10) 入学前教育の費用はどうなっているのか（料理教室など）
○すべて短大が費用を負担している
- (11) 財政問題を抱えていると思うが、定員減だけでよいのか
○全国の短期大学において定員充足率は7割。
奨学金の機関要件を維持し多子世帯への教育チャンスを維持するという意味でも、まず定員減が必要。定員を減らして修学支援資金の機関要件をクリアすることを目指した。
学生募集では高校訪問などの広報活動に力をいれ、入学している学生を丁寧に指導していくなどの内部的な質向上（体制の改善）に努め、それらを外部にPRしていく。
東京都短期大学協会では数年前まで30数校だったが、今や30校を切っている状況。
理事長は、今来ている子どもを大事にしていきたいとの考え。志望している学生がいる限り短大は続けるという。

V. 閉会に向けて

外部評価委員の方々に様々なご意見やご提言などをいただいた。

とりわけ本学の入学者選抜および学修成果に関する評価として、学習発表会などの学修成果に向けた取り組みや、他者と協力し努力できる者を入学者の受け入れ方針にして選抜している点などは継続していきたい。また、今後は学内でも自己点検と自己評価を分ける視点を持つなどして、内部質保証の向上を続けていきたい。

※短大校舎（5階→1階）を見学し終了

以上